

平成29年度 第3回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】

平成29年10月20日（金）午後6時45分から午後8時45分まで

【場所】

学園都市センター11階 学生交流室・国際交流室

【出席者】

◎評議員

森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、河西評議員、舘山評議員、谷川評議員、
児野評議員、ドミー評議員、マダワラ評議員

◎事務局

小浦部長、浅岡課長、櫻井主査、柳沢主任、阿部田主事

【欠席者】

シュレスタ評議員

【公開・非公開の別】

公開

【傍聴人】

1名

【配付資料】

評議会次第

資料1 推進する施策（案）の主な変更点

資料2 施策の体系図（案）

資料3 重点施策の数値目標

資料4 平成29年度多文化共生推進評議会予定

【参考資料】

推進する施策の素案

多摩26市における居住する自治体内へ通勤する就業者の割合

1 開会

《資料確認》

《小浦部長挨拶》

2 報告事項

評議員

- ・次第2報告事項について、事務局より「多摩26市における居住する自治体内へ通勤する就業者の割合」について報告をお願いする。

《事務局より資料1を用いて説明》

評議員

- ・ただいまの説明に対して質問はあるか。

評議員

- ・お忙しい中、貴重な資料をありがとうございました。見事に予想が外れ、八王子周辺が増えて

いる。一方で北側が減っているのわかる。

評議員

・増えている理由はわかるか。

事務局

・そこまではわからない。

評議員

・それでは、続いてその他報告事項について、事務局より報告をお願いします。

《事務局よりその他報告事項について説明》

評議員

・ただいまの説明に対して質問はあるか。なければ、次第3の意見交換に進むが、意見交換に先立ち、事務局より連絡があるとのこと。事務局よりお願いします。

《事務局より資料4を用いて説明》

評議員

・事務局で検討のうえ、評議会の開催回数を当初の予定より1回増やしたいということだが、いかがか。

評議員

・問題ない。増やすことに了承。

3 意見交換

評議員

・それでは、資料1、2について事務局より説明を求める。

《事務局より資料1を用いて説明》

《事務局より資料2を用いて説明》

評議員

・資料1について意見があるか。

ひょうぎいん
評議員

- ・新事業の見直し案の事業No.14 と事業No.40 の違いは何か。両方とも主な事業に八王子国際交流フェスティバルがある。この2つの違いは何か。

じむきょく
事務局

- ・事業No.14 は、これまで取り組んでいる事業としては、八王子国際交流フェスティバルや留学生支援等があるが、今後の取り組みに記載しているように、子育てなどテーマを絞っており、日常的に行われる取り組みの交流の場をイメージしている。
- ・事業No.40 は、大きなイベントを意図している。

ひょうぎいん
評議員

- ・事業No.40 の国際交流フェスティバルには、参加人数の報告があったが、ここはどちらかというと日本人側への啓発と解釈した。外国の方に積極的な参加を促すこととは異なってくるのではないかと。日本人側が何かをしなければならないというもののようには思える。

じむきょく
事務局

- ・訂正する。事業No.40 は多文化共生意識の啓発となっている。外国人との交流を促すなどにより、日本人側への意識啓発につなげていくもの。
- ・事業No.14 は、外国人市民の社会参加がテーマとなっており、外国人市民が積極的に社会に出ていく支援を行うもの。

ひょうぎいん
評議員

- ・その他意見があるか。

ひょうぎいん
評議員

- ・資料1 の事業2 の現在の主な事業に記載のある多文化共生推進事業協力員について説明してほしい。

じむきょく
事務局

- ・八王子市役所では、外国語ができる職員を事前登録し、窓口や国際交流の場面において、主に通訳などで活躍をしてもらっている。普段、市職員は名札を着用しているが、一般職員は青、管理職は黒、外国語ができる職員は緑、手話ができる職員が赤のストラップとなっている。名札にも「英語が話せます」「中国語が話せます」などを記載している。例えば、外国人の方が市民課窓口に行った際、その場に外国語が話せる職員が不在でも、名簿を活用し、対応できる別の部署の職員を窓口呼び、通訳する制度が多文化共生推進事業協力員。現在、約80人登録しているので、今後増やしていきたい。

ひょうぎいん
評議員

- ・その制度は、いつ頃からあるのか。

事務局

- ・10年以上前からある。

評議員

- ・外国語ができる人は緑のストラップを付けていることを市民に公表しているのか。

事務局

- ・公表していない。

事務局

- ・良い制度なので市民にも周知した方が良い。

評議員

- ・事前に知っていれば、話かけやすい。

事務局

- ・英語を話したいと思って声をかけた際、中国語が話せる職員だったという可能性もある。

評議員

- ・窓口で通訳が必要になる場合は、事前に予約が必要なのか。

事務局

- ・事前予約とかはあまりない。ただ、いつ来るかがわかっているならば、そのタイミングで対応ができるように手配をする。

評議員

- ・それは融通が利くものなのか。別の職員も各々の業務を行っているのではないだろうか。

事務局

- ・急ぎの業務がある場合は、その職員を呼べないこともある。そのような場合は、ほかの職員で対応を検討する。
- ・一部の窓口では、業者に委託し、電話による通訳の仕組みもあるほか、本課の嘱託員で、英語、中国語、韓国・朝鮮語が話せる職員がいる。
- ・八王子国際協会の語学ボランティアに依頼することもある。

評議員

- ・谷川^{たにがわ}評議員^{ひょうぎいん}の意見^{いけん}のように、事前^{じぜん}に予約^{よやく}ができる体制^{たいせい}があるといいのではないだろうか。

事務局

- ・事前^{じぜん}予約^{よやく}を受ける場合^うもある。次回^{じかい}いつ来^きたいなどの依頼^{いらい}や前回^{ぜんかい}と同じ通訳^{おな つうやく}の方が良い^{かた よ}という要望^{ようぼう}を受けることもある。

事務局

- ・市^しの多文化共^{たぶん}生^{かきょう}推進課^{せいすいしんか}のホームページ^{ほーむぺーじ}に掲載^{けいさい}するなど活用^{かつよう}をしてほしい。

評議員

- ・その制度^{せいど}は、市^しの本庁舎^{ほんちようしゃ}だけなのか。

事務局

- ・事務所^{じむしょ}などの出先^{でさき}でも運用^{うんよう}している。

評議員

- ・予約^{よやく}という運用^{うんよう}を考^{かんが}えるのであれば、退職^{たいしよく}された方^{かた}などを事前登録^{じぜんとうろく}し、活躍^{かつやく}していただくのはどうか。

事務局

- ・学校^{がっこう}における面談^{めんだん}等^{とう}の際^{さい}には、日時^{にちじ}があらかじめわかるため、八王子国際協会^{はちおうじこくさいきょうかい}の語学^{ごがく}ボランティアに依頼^{いらい}していることもある。

評議員

- ・その依頼^{いらい}はどこにするのか。

事務局

- ・学校^{がっこう}から多文化共^{たぶん}生^{かきょう}推進課^{せいすいしんか}に依頼^{いらい}があり、それを受け、八王子国際協会^{はちおうじこくさいきょうかい}に依頼^{いらい}するなどの対応^{たいおう}をとっている。

評議員

- ・大変^{たいへん}良い制度^よだと思うので、もっと活用^{かつよう}できるようにして欲しい。目立つ^{めだ}ところに、「この窓口^{まどぐち}は〇〇語^ごで対応^{たいおう}ができます」などの表示^{ひょうじ}があると、外国^{がいこく}の方は市役所^{かた}に相談^{しやくしよ}しやすくなるのではなか。^{そうだん}

事務局

- ・工夫^{くふう}を試^{くふう}してみる。

評議員

- ・推進する施策（見直し案）の事業No.39 について、とても良いアイデアだと思う。今後見直しをしていく中で、日本人市民の意識の啓発はとても大切。まとまった期間に集中的に行うことで効果が出やすくなる。
- ・プランにどこまで詳細に記入するかわからないが、啓発期間の取り組みでは、小中学校との連携を意識してほしい。
- ・日本人向けの意識の啓発は現在重点事業になっていないかもしれないが、事業No.38 などについても、具体的な戦略があるわけではないかもしれないが、重点的に行ってほしい。気がついた人にやってもらえばいいと任せてしまうとなかなか広がっていかない。どのように行っていくか検討する必要がある。

評議員

- ・前回も言ったかもしれないが、多文化共生は、マイノリティを支援することも大切だが、マジョリティへの啓発が特に大切だ。日系ブラジル人のハタノさんが言っているが、多文化共生という言葉は、マイノリティから出てきた言葉ではない。弱い立場の人から見れば、「差別をなくせ」という言い方になる。多くの日本人の意識を変えることは、多文化共生を考えるうえで重要である。具体的な事業に多文化共生講演会とあるが、意識を変えるような面ではワークショップのようなものがあるといい。講演会を聴いて終わりより、体験型・参加型のイベントを考えた方がよい。

評議員

- ・アクティブに学ぶのはよい。

評議員

- ・前回の評議会で、海外とスカイプやテレビ電話をしてみるという話があったように、市内在住の小中学生を対象に海外と交流してみたい子どもを公募し、啓発期間に実際に電話をするという体験型のイベントはどうだろうか。
- ・学校ごとでは、先生の負担が増えたり、先生の力量にも左右されてしまうので、やりたい小学生、中学生、高校生などを対象に、ここで海外友好交流協定を締結したグリーンツェン市などの海外友好交流都市と交流すると、楽しさもありよいのではないだろうか。

評議員

- ・小中学生対象だから学校で、と考えない方がよい。

評議員

- ・入学前の小さい子どもたちが、様々な国の文化を日常生活の中で体験出来るようにするのがよい。色々な国の子どもと遊びながら自然に異なる文化を知っていけるとよい。

ひょうぎいん 評議員

- まず、外国人市民と接点がある方を対象に、立場が変わると見方も変わることがわかるようなワークショップをしてみてもいいだろうか。
- 推進する施策（見直し案）の事業No.14 について、外国人市民のニーズもあり、とても大事なことでと思う。マダワラ評議員のような活動を誰かが把握していなければ推進のしようがない。誰かが把握しているか。

しむきょく 事務局

- 協働推進課がNPOや市民活動を支援している。ホームページに様々な団体を掲載しているほか、補助金制度もある。補助金審査の際、国際交流・多文化共生に関わる団体であれば、本課が審査に加わることとなっている。その際に、活動している団体についての情報を把握することになる。また、ホームページに登録された市民団体を掲載しているので、そこで確認ができる。
- 補助金の申請や登録していない団体を把握するのは難しい。活動時には会議室等を借りていると思うので、活動場所の利用状況からピックアップすることで把握出来るかもしれない。

ひょうぎいん 評議員

- 自分が活動をしていて、個人で様々なところに依頼をして回るのが大変。例えば、国際協会が支援目的で活動している人、交流目的で活動している人を一元的に集め、ネットワークを築ければ、もっと活動しやすいのではないかと考えている。

ひょうぎいん 評議員

- 探す側にもメリットがある。

ひょうぎいん 評議員

- 児野評議員がいろいろな人を紹介してくれたため、多少活動しやすかったが、各団体が各々で活動するのも良いが、横のネットワークの形が見えるとやりやすいと思う。

しむきょく 事務局

- 相談する窓口としては、市民活動ということであれば、市民活動支援センターとなる。前回の評議員会の会場に支援センターがあり、そこが相談を受ける体制をとっている。

ひょうぎいん 評議員

- 外国人留学生にフォーカスされているのはいいと思う。施策に加えて欲しいのは、大学や日本語学校を修了したあとの就職の問題である。ほとんどの留学生が抱えている問題だ。留学生の生活支援の問題と就職支援の問題をリンクさせた施策があれば良いと思う。
- 文部科学省では、学生が都内に集中しているため、都内には新たな大学や学部は作らせないと決めている。しかし、それは根本的な解決ではなく、地方の大学を卒業し、地方に働く場所があれば、学生は地方に行く。卒業後に仕事があれば、八王子に残ってくれる。卒業後にすぐ帰国

したいと ^{かんが}考えている ^{りゅうがくせい}留学生は少ない。就学問題と就職問題の ^{すく}話が ^{しゅうがくもんだい}リンクすれば良いと感じ ^{しゅうしよくもんだい}ている。

ひょうぎいん
評議員

・創価大学のゼミから「留学生が就職に困っていて、何とか解決をしたい」という話があった。
市内中小企業でも海外展開している、あるいは、今後したいと考えている会社はある。「良い留学生を欲しいが、どうしたらよいかわからない」という会社が多い。創価大学の学生が、商工会議所や様々な企業にヒアリングしている。商工会議所のものづくりや加工業などの中小企業が海外進出を検討しており、それらの企業の宣伝を冊子にまとめて学生に提供し、マッチングさせようという取り組みを検討している。「どうしたらいいかわからない」という中小企業が多く、マッチングの機会が必要になっている。八王子国際協会でも企業めぐりなどしているが、数ある中小企業を対象として紹介してほしい。できるだけ協力したいと考えている。

じむきよく
事務局

・是非、進めてほしい。推進する施策（見直し案）の事業No.34 において、当初、今後の取組みに
商工会議所を書こうとしたが、現時点では関係団体と記載している。

ひょうぎいん
評議員

わたしとお
・私を通していただければ、
ちょうせい
調整をしたい。

ひょうぎいん
評議員

・マッチングもそうだが、実際に採用後の支援もして欲しい。具体的には、ビザをどうするかなどについても支援が必要である。

ひょうぎいん
評議員

・中小企業は手が足りてないので留学生が欲しいと考えているのか。

ひょうぎいん
評議員

・良い留学生が欲しいと考 えていると思う。大学とマッチングをしても留学生はあまりこ
ない。様々な大学で企業説明会などに参加したが留学生はほとんどいない。

ひょうぎいん
評議員

・ 情報^{じょうほう}が足りないかもしれない。受け入れる準備^{じゅんび}ができているか。文化^{ぶんか}や習慣^{しゅうかん}になじめないと定着^{ていちゃく}しないのではないか。

ひょうぎいん
評議員

・わが社でも辞めてしまった人がいる。その人は、本人が会社になじめないということよりも家族

にほんしゃかいになじめないという理由だった。子どもが保育園等でいじめにあう、日本語が話せないなどの問題があった。会社だけでなく、家族のことも考えないと定着しない。

評議員

・先ほど、事務局より子育て支援についてアイデアが欲しいとの話があったが、意見はないか。

評議員

・出来るかわからないが、八王子市のメール配信「すくすく☆メール」などで良い情報があつたら、自分で英語に翻訳してシェアしている。市自体がそういった情報を多言語で発信できれば拡散しやすくなり、良いのではないだろうか。

・たとえば、10月にマール乳（乳幼児医療費助成制度）が変わった。毎年手続きが必要となっている。申請が必要であるなど大切な情報は、市でも協会でも良いので、ネットで発信していいか。紙媒体では限りがあるので、サービスの受給者が市役所や八王子国際協会に足を運ばなくても良いようにしてほしい。子育てしていると外に出るのが本当に大変なので、ネットで情報収集できるという。

評議員

・マダワラ評議員の企画したイベントに参加した際、自分の母国の人と話す機会があった。その人は子どもがいて小児科と耳鼻科に通う機会がたくさんあり、家の近くの西八王子駅付近の病院に通っているが、毎回何時間も待っている。他にどの病院で対応できるかがわからないとのこと。交流する機会があれば、医療機関の情報なども互いに共有できると思う。

事務局

・市では、2ヶ月に一度、外国人向けの情報誌を発行している。多文化共生推進課が記事を選択し、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポランディアの協力によるインドネシア語を含め6か国語で発行している。簡単にいえば、外国人向けの広報紙である。2ヶ月に1回A3表裏なので、情報が限られている。以前、本課で頻度を増やしたり、情報量を増やすという案は出たことがあるが、現状では手が回らないこともあり、2ヶ月に1回の発行となっている。

・子どもや医療に関する内容が多く盛り込まれている傾向はあるが、先ほど意見の中で、外国人向けの情報提供について課題があると感じた。

評議員

・市のHPが自動翻訳されるが、子育て広場という子育て支援センターの行っている毎月の情報はPDFで公開されているため、自動翻訳されない。いちばん知りたい情報が多言語化出来ないことにモヤモヤしている。広報「はちおうじ」に掲載のある子育て情報も多言語化されていないので、自分で翻訳して対応している。改善できればもっと良くなる。

評議員

- ・そのような活動^{かつどう}をしている人が他^{ひと}にもいるとしたら、互^{たが}いに重複^{ちようふく}しない方が良^{かた}いと思^よう。何^{おも}か^{なに}受け皿^{うけざら}がないものか。

評議員

- ・翻訳^{ほんやく}したものを市^しに送^{おく}るなどはどうか。

事務局

- ・ホームページ^{ほーむぺーじ}における自動翻訳^{じどうほんやく}は技術^{ぎじゆつてき}的に可能^{かのう}な話^{はなし}。PDF^{じどうほんやく}では自動翻訳^{たいおう}が対^{たい}応^{おう}できないため、テキスト^{てきすと}にすればよい。それをやっ^{じちたい}ている自治体^{じちたい}もある。すぐ^{たいおう}に対^{むず}応^{おも}は難^{なん}しいと思^{おも}うが、そのよ^{いけん}うな意見^{いけん}があることを市^しの広報課^{こうほうか}に伝^{つた}えたい。

評議員

- ・そのとき^{ひつよう}に必要な情^{じよう}報^{ほう}がすぐ^てに手^{はい}に入るように、八王子国際協^{はちおうじこくさいきようかい}会^{いらい}に依^{ほんやく}頼^{らん}し翻^{ほんやく}訳^{やく}をしま^{らう}らう。
話者^{わしゃ}が多い2^{おお}，3^{げんご}言語^{ごんご}については広^{こう}報^{ほう}と一^{いつ}緒^{しよ}に配^{くば}れるといい。

評議員

- ・いったん区切^{くぎ}りをつ^{つづ}け、続^{じゆうてん}いて重^{しさく}点^{せつてい}施^{いけん}策^{じゆうてん}の設^{じゆうてん}定^{もくひよう}につ^いいて、意^い見^{けん}はあ^るか。ど^れを重^{じゆうてん}点^{もくひよう}目^{もく}標^{ひよう}に設^{せつてい}定^きするかを決^きめるとい^うことか？

事務局

- ・各施^{かく}策^{しさく}のテ^てマ^まに對^{たい}し、少^{すく}なくとも1^{ひと}つは設^{せつてい}定^{てい}する。又^{また}は施^し策^{さく}の柱^{はしら}ご^とにいくつ^かか設^{せつてい}定^{てい}する等^{とう}考^{かんが}えら^{れる}。

事務局

- ・前提^{ぜんてい}として、参^{さん}考^{こう}資^{しりよう}料^{すいしん}の推^{しさく}進^{そあん}する施^{ごらん}策^{かくじぎよう}の素^{もく}案^{ひよう}を^を覧^{らん}にな^{って}わ^かる^とお^り、各^{かく}事^じ業^{ぎよう}か^ら目^{もく}標^{ひよう}を削^{さく}除^{じよ}して^{いる}。今^{こん}後^ごは数^{すう}値^ち目^{もく}標^{ひよう}を^を設^{せつてい}定^{てい}する^こに^{なる}が、施^し策^{さく}が^{すす}進^{しん}で^{いる}か^どう^かは、代^{だい}表^{ひよう}的^{てき}な数^{すう}値^ちで^はあ^く握^くする^こに^{なる}。力^{ちから}を^いれ^てい^くべ^き施^し策^{さく}を^き決^きめ、代^{だい}表^{ひよう}的^{てき}な数^{すう}値^ちを^はあ^く握^くする^こで、全^{ぜん}体^{たい}の進^{しん}み具^ぐ合^{あい}を^はん^{だん}断^{だん}して^いく。3^{さん}つあ^る大^{だい}きな柱^{ちゆう}につ^いて、各^{おお}々^{はしら}2^につづ^つく^らい^を設^{せつてい}定^{てい}したい。今^{こん}回^{かい}は、ご意^い見^{けん}を^いた^だき、事^じ務^む局^{きよく}で検^{けん}討^{とう}して^いく。

評議員

- ・重^{じゆう}点^{てん}的^{てき}に進^{すす}めて^いく^ので^あれ^ば、数^{すう}値^ちが^みえ^る方^{かた}が^よい^のか。

事務局

- ・そ^{ほう}の^の方^のが^ぞ望^{ぼう}ま^{しい}い。

評議員

- ・表^{ひよう}に記^き載^{さい}のある「【充^{じゆう}】」とい^いう^みのは、ど^いの^みよ^うな意^い味^みか。

事務局

- ・充実していくということ。

評議員

- ・重点施策とはどんなイメージか。

事務局

- ・たとえば、事業No.4 を重点施策にするならば、現在の案であがっている全46の施策を均等に
進めていくわけではなく、No.4 に全体50%の力を注ぎ、その他を残り50%の力で実施する
ということ。

評議員

- ・数値で見えるほうがいいのではないだろうか。具体的に資料3 に数値目標の例があるため、い
ったん資料3の説明を受けたうえで、重点施策の設定を検討するのはどうか。

- ・《事務局より資料3を用いて説明》

評議員

- ・資料3に記載のある事業については、あくまで例ということで良いか。

事務局

- ・そのとおり。

評議員

- ・資料3を見ると、施策の柱の指標としては適切な数値が挙げられているが、これから検討する
ことは、どの施策を重点施策にするかということで良いか。

事務局

- ・重点施策と数値目標はイコールでなくても良い。重点施策の中で数字が取れるものを数値目標
にすれば良いものもあれば、たとえば、資料3施策の柱Ⅱの1番目の「八王子市にこれからも
住みたいという外国人市民の割合」はどの施策にも該当しないが、施策の柱Ⅱ「生活支援の
充実」における全体的な指標にはなりうると考えている。数値化出来る等を気にせず、まずは、
重点施策にすべき事業を決め、その後、数値目標を決めていければと考えている。

評議員

- ・推進する施策のなかで重要なものを数値化の可否に関わらず、検討してほしい。

評議員

- ・事業No.4、5 について。今はスマートフォンを多くの人が使っている。案内表示などに、QRコードを表示するようにすればよいのではないかと。スマホで読み取れば、すぐにわかる。多言語が必要とところにQRコードを表示していれば、住んでいる外国人や観光客もすぐに理解できる。

評議員

- ・その意見に賛成である。最近では、ほぼ反響的にQRコードを読み取るようになっている。ファミレスなどでQRコードがあれば、何かわからなくても、クーポンがもらえるといった良いことがあるだろうと思って読み取る人は多い。QRコードの色分けをしても良い。

評議員

- ・最近では、ICT やインターネットにも関心が高いので、スマートフォンがあればわかるようになると良い。

評議員

- ・中国など海外は進んでいて、無人コンビニなどもある。最後にQRコードを読み取るだけで良い。

評議員

- ・弁護士なども裁判前に、QRコードで資料データを確認している。

評議員

- ・IT関係は電話インフラが整備されていない東南アジアは早い。3G など日本で流行る前から商業施設で使われている。

評議員

- ・市役所に入っただけのところに、QRコードを表示しておいて、スキャンすれば多言語で市役所の情報がすべて見られるようなことをしておくといよいのではないかと。案内の人がいなくても良くなる可能性もある。
- ・不動産情報の提供も必要になってくる。外国人の対応が出来る不動産屋の情報がわかればよい。留学生の支援の1つとして重要になる。
- ・10月から日本語学校で教えている。評議会における議論の内容は、日本語学校の学生に伝えても良いのか。

事務局

- ・ここでの議論は原則公開となるほか、議事録等も市のホームページで公開しているため、問題ない。

評議員

- ・学生を支援する立場となり、様々な場面で力を入れていきたいと思っている。

評議員

- ・事務局の話のとおり、議事録等も公開されるので、学生に話すことは問題ないが、実現するかどうかはわからない。

評議員

- ・この施策については、とても興味を持っている。もし、ここで衆議院議員選挙がなければ、明治時代以来はじめて国文法以外の言語の予算がついたかもしれない。議員立法を進めているはずなので、国レベルの予算が流れてくるため、受け皿を用意しておけば予算化の対象となるかもしれない。

評議員

- ・日本語学校卒業後すぐには仕事ができないため、大学か専門学校に進学し、その後の就職までをサポートしていく必要がある。

評議員

- ・別科というものもある。

事務局

- ・日本語学校については、市にあまり情報がないため、以前に東京国際交流学院にヒアリングさせていただいたように、その他にも話を聞きたいと思っている。それが新たな事業に結びつくかもしれない。

評議員

- ・留学生への就職支援、生活支援を重点事業にするのが良いのでは。他にはどうか。

評議員

- ・各施策の柱ごとに2つずつということであれば、新しく挙げられた施策を重点としたらよいのではないかと。

評議員

- ・施策の事業No.8「国際的なビジネスイベントへの対応」について、コンベンション施設が新たにできるということでは、大学に働きかけ国際的な学会を誘致することができればよいのではないかと。

評議員

- ・議論されたものでは、多文化共生意識の啓発期間がある。

ひょうぎいん
評議員

- ・外国人留学生への支援も目玉として、重点施策に設定してみてもどうか。

ひょうぎいん
評議員

- ・データはとりにくいかもしいが、資料3施策の柱Ⅱ生活支援の充実の1番目「八王子にこれからも住み続けたいという外国人市民の割合」はまちづくりにおいてわかりやすい指標の
ないか。アンケートも苦勞されていたため、データ集計は大変だと思うが、素人が見てもわかり
やすい。住みたくない人が減っていけばいいのではないか。

ひょうぎいん
評議員

- ・推進する施策の項目には出てこないが、そのいずれかの項目に入れて実施してほしい。

じむきょく
事務局

- ・日本人に対しては、市政世論調査において毎年とっている数字であるが、例年9割前後。市政が
上手くいっているかの総合評価になっている。

じむきょく
事務局

- ・資料のとおり、市政世論調査で87.5%となっているため、外国人に対しても同程度の数字が
望ましい考 え で、85%という例を出した。

ひょうぎいん
評議員

- ・このような調査を外国人を対象にやっている自治体は他にもあるのか。

じむきょく
事務局

- ・把握していない。

ひょうぎいん
評議員

- ・ほかの自治体で、日本人で9割を超えているところはあるか。

じむきょく
事務局

- ・把握していないが、八王子は高いと言われている。自治体によって数字の取り方が若干
異なっているとは思ふ。

ひょうぎいん
評議員

- ・ほかに意見はあるか。なければ、最後に評議員から何かあるか。

ひょうぎいん
評議員

- ・多文化子育てについて活動の紹介。チラシの配布に基づき紹介。
- ・1つは英語を使って防災の話をしてくれる NPO 団体の和なびジャパンを招く。日本語が出来ない外国人が災害時にどのようにすれば良いかを考えるワークショップを行う。避難等の情報は日本語のみなので、避難という言葉聞き取れたかなどを確認したりする。
- ・外国人の両親向けで、日本の生活が長くなると、子どもが日本語しか話さなくなり、自身の母語で話しかけても反応しなくなってくる。子どもの発達や保育を専門としている東洋大学の内田先生にお願いをして、1時間のワークショップを行う。

評議員

- ・日本語学校の学生などは、地震などをとても怖がっている。日本人は建物の耐震のことや地震の対応を知っているが、留学生は知らないので怖がる。

評議員

- ・日本に来たばかりで英語がわかる学生がいれば案内してほしい。

評議員

- ・Life in Tokyo というポータルサイトがあり、日本語と英語で情報を配信している。地域ごとに配信しているが、多摩エリアは情報が少ないため、このような情報があるのは素晴らしい。是非情報提供したい。

事務局

- ・東京都が発行している「Life in Tokyo」という冊子がある。日本語のほか、英語、中国語、韓国・朝鮮語があり、東京に関する情報や、住民登録、銀行手続、日本語教室について記載されている。八王子国際協会のほか、市の事務所でも配布をしているが、在庫が少ないため、問い合わせをして確認をしたほうが良い。

評議員

- ・日本語版が足りないという話を聞く。増刷するという情報もある。

事務局

- ・ホームページからダウンロードできる。

評議員

- ・今まで、書き物の多言語化の議論が多かったが、放送の多言語化も必要ではないか。行方不明者の防災放送などがあるが、日本語での放送しかない。できれば、何か国語かで放送する必要もある。今年の八王子まつりの際、進入禁止のロープを張り、立ち入り禁止の旨の注意放送をしていたが、放送が日本語のみ。外国人観光客の誘致もしているため、多くの外国人が来ているが、言葉がわからないため、立入禁止内に入ってきてしまうということがあった。そのような状況

をみると、放送等の多言語も必要とを感じる。

ひょうぎいん
評議員

- ・成田空港で使われている自動翻訳スピーカーが一台あればいぶんと違うのではないかな。

ひょうぎいん
評議員

- ・本日は時間となったため、以上とする。

4 じ む れ ん ら く 事務連絡

じ か い か い さ い に つ い て い へ い せ い ね ん が つ に ち か じ ぶ ん
次回開催日程 平成29年12月19日（火） 18時30分から

5 へ い か い 閉会